

役割語と翻訳について

タム・カ・ユアン・エイドリアン

1. はじめに

グローバル化していく現代社会においては、民族や国境を越えて人・もの・情報が移動しつつあり、多文化交流の必要性が高まっている。そのような社会において、言語は現在の社会を構成する上での重要な要素であると言える。筆者は家庭の事情でいくつかの国で生活する中で、それぞれの言語の特徴やそれらの言語の違いに興味を抱くようになった。特に母語話者にしか理解できない表現や、学習者と母語話者が持つ言葉のイメージの差などに惹かれ、「役割語」について研究を行いたいと思った。

我々は日常生活の中で、特に初対面の人に対して、相手が持つ社会的要素、言わば性別・年齢・職業・身分等により、一定のイメージを持っている。日本語母語話者には、老人であれば、「ワシは.....じゃ」という話し方をするというイメージがある。このことから、金水(2003)は「ある特定の言葉遣い(語彙・語法等)を聞くと、特定の人物像(年齢『性別・時代等』)を思い浮かべることができる時、あるいは、ある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができる時、その言葉遣いを「役割語』と呼んでいる。

役割語はアニメや漫画等の仮想・フィクションの世界で顕著に見られる。また、役割語は、語や文だけではなく、様々な言語的な要素として用いられる可能性がある。例えば、談話やイントネーション等にも見られると思われる。

2. 先行研究

2.1 役割語の構成

役割語を聞くと、受け手は特定の人物像を想像し、その人物が言いそうな言葉遣いを思い浮かべる。裏を返せば、役割語は言語的なステレオタイプであると言える。本研究では、ステレオタイプについて、次のように定義する¹。

1a: “A widely held but fixed and oversimplified image or idea of a particular type of person or thing”

1b: “A person or thing that conforms to a widely held but oversimplified image of the class or type which they belong”

すなわち、我々は一つのことについて、ある特徴により分類し、自分らしくそれらを予

¹ Oxford Dictionaries <http://www.oxforddictionaries.com/definition/english/stereotype>

測、推測し、偏った見方をするということである。例えば、リンゴの色を聞かれると、多くの人が「赤」と答えるだろう。つまり我々は「リンゴ」という個体を「赤」というイメージと結び付けて理解しているということである。だが、これはあくまで個人的な結びつきであり、人により異なる。ある人は、リンゴの色を聞かれると、「赤」以外の答えを行う可能性がある²。しかし、一つの考え方、あるいは物事の結びつき方が社会的に認められ、人々に共有されることで、ステレオタイプになっていくと言える。

我々が成長する過程で最も影響を受けるものは家庭や学校、すなわち我々が生活する社会である。社会で生活する限り、情報、ルール、知識、他者の価値観、社会的な決まり等と必然的なかかわりを持つことになる。我々は無意識にそれらを認め、受け入れている。このように、ステレオタイプは無意識に、周囲の環境や文化の影響を受けて構築されるものである。他方、自らの理解や考え方を通して知り、自分のものにすることでステレオタイプが構成されることもある。

役割語もまた同じように構成されると考えられる。ある人物像にふさわしい言葉遣いが社会的に広がり、認められることで、その言葉遣いがその人物像と結びつくことになる。以下においては「メイド言葉」を例として挙げる。

2.2 メイド言葉と属性表現

2a: 「お帰りなさいませ、ご主人様」

2b: 「行ってらっしゃいませ、ご主人様」

上の台詞を聞くと、日本語母語話者によってはメイドの姿がイメージされるであろう。しかしながら、「メイド (Maid)」という概念はもともと西洋のものであり、日本においてはアニメにおける「メイドキャラクター」をきっかけとして広く認知され始めた。そして「メイド喫茶³」の登場により、社会に広く知られ、社会的属性となり、「メイド」という人物像を表す言葉、すなわち役割語になったと考えられる。

2.3 文末表現

役割語が最も見られやすい構文的環境の一つとして文末表現が挙げられる。日本語において、「ぜ」「ぞ」「わ」「かしら」等の終助詞は人物像を喚起させる。例えば、「男言葉」(ぜ、ぞなど)と「女言葉」(わ、かしらなど)である。それらの言葉遣いを通して、受け側に特定の人物像を伝えることになる。以下に例を見てみよう。

3: 「あなた、テニス出来て？」或る日、お前が私に云った。

「ああ、すこし位なら……」

² 例えば、「グラニースミス」という品種は緑のリンゴである。

³ メイド喫茶としてもっとも早いものは1998年8月東京キャラクターショーに出展した「Pia キャロットブース」である。

「じゃ、私と丁度いい位かしら?……ちょっと、やってみない」
「だってラケットはなし、一体何処ですのさ」
「小学校へ行けば、みんな貸してくれるわ」⁴

例(3)の小説の台詞には「かしら」「わ」という「女言葉」が見られる。そのような終助詞を通して、作者は読者に「お嬢様」というキャラクターを喚起させている。すなわち、ここでの作者は仮想世界に登場する人物のイメージを読者に喚起させるために「役割語」を用いているということである。

このような役割語はアニメにおける動物の言葉遣いにも見られる。

4a: ひどいっち

4b: How dare you-chi⁵

この例は「モンスターファーム (1997 に発売され、アニメ化された)」の中に見られた台詞で、翻訳は「Kissanime」という翻訳者によるものである。ここではモンスターである話者のイメージを特徴づけるため、文末に「っち」という文末表現が付けられているが、英訳にも同様に「chj」が付けられている。

ただし、そのような文末表現は日本語と英語の翻訳において常に対応しているわけではない。以下の例は South Park というアメリカのアニメに見られる中国人の台詞であるが、それを日本語に翻訳する際には「アル」や「ヨロシ」という文末表現によって中国人のイメージを特徴づけようとされている。

5a: I don' t know what happened to all my customers

5b: ウチのお客はどうしたアルカ?

6a: It' s like its my accent that make them feel uncomfortable

6b: 私のアクセントが気に入らないみたいアル

7a: We are going to take our customers back from Sodosopa

7b: ソドソパからお客をとりもどすヨロシ

このような文末表現に加えて、第一人称の代名詞も役割語が見られやすく、日本語と英語の違いが見られる。例えば、英語の「I」は、日本語に訳される際には「僕」、「私」、「俺」等、様々な人称代名詞として表される以下においてはこの点について述べる。

⁴ 堀辰雄『燃ゆる頬・聖家族』、麦藁帽子より

⁵ モンスターファーム、第52話

2.4 一人称代名詞

一人称 (First person pronoun) というのは、話し手や書き手が自分自身また自分自身を含む仲間をさす語である。日本語では、「俺」、「僕」、「私」、「おら」等、様々な形式がある。それぞれ異なる人物像を喚起させ、話し手や書き手が意図に合わせて使い分けるとされる。例えば、お嬢様であることを示したいときは「わたくし」、男であることを示したいときは「俺」が選ばれる。また、田舎の出身者であることを表したいときは「おら」や「おいどん」が選ばれるであろう。

このように日本語には様々な一人称があり、伝われる場面が異なる。日本語母語話者はこのような使い分けを無意識に行っているが、日本語学習者にとっては困難である。特に、一人称が「I」の一つしかない英語を母語とする学習者にとっては極めて困難である。日本語の様々な一人称代名詞を英語に翻訳する際にはすべて「I」でまとめられるが、逆の場合は複雑である。

表 1： 2008 北京オリンピック、NHK 放送に出た翻訳⁶

選手	翻訳テロップ表記	一人称
1	オレがナンバー 1 だ!	オレ
1	オレが NO. 1!	オレ
2	僕はすでに世界記録を持っているから 記録より世界一だと証明できてうれしい	僕
2	僕には強い競争心があります	僕
2	彼は偉大だが僕は第 2 のスピッツではなく フェルプスとして先駆者を目指している	僕

表 1 は 2012 年のオリンピックに出場した選手たちの NHK によるインタビューの翻訳である。NHK で放送された二人の男性選手の翻訳テロップ表記の中で、「オレ」と「僕」という二つの一人称が使い分けられている。

具体的には、選手 1 はウサイン・ボルト (Usain Bolt) (図 1) であり、選手 2 はマイケル・フェルプス (Michael Phelps) (図 2) である。



図 1 ウサイン・ボルト



図 2 マイケル・フェルプス

⁶ 太田 (2009) の表を基に作成

原文はどちらも「I」であるが、それを日本語に訳す際には、ボルト選手に対してもフェルプス選手に対しても「オレ」や「僕」といった男性専用の人称が使われ、「わたし」のように男女どちらにも使われる人称詞は用いられていない。これは男性役割語が、彼らの「強さ」や「男らしさ」を明確に表すためであると考えられる。

二人のイメージに関して、ボルト選手の方がフェルプス選手よりもたくましいイメージを有するため、「オレ」と「僕」の違いとして使い分けられていると考えられる。

3. 英語における役割語

3.1 はじめに

これまでは日本語における役割語について見てきたが、ここで「役割語」が英語にも見られるのかについて考えてみたい。英語の役割語に関してはこれまで指摘されることはなかったが、その特徴を明らかにすることは言語学的な意義があると考えられる。また、日本のアニメやマンガをきっかけとして日本語を勉強し始める外国人学習者が多く見られる現状をふまえると、日本語教育にとっても大きな意義を持つと考えられる。

3.2 英語の役割語

ここでは英語の「役割語」と思われる例をいくつかを挙げたい。

8a : Hey sexy, how 「ya doin」?

8b : I could 「Gopher」 a beer

これらの例を見ると、いずれも一般的な英語 (Standard American English, SAE) ではないことが分かる。8a) は黒人英語 (African American Vernacular English, AAVE) と呼ばれるものであり、8b) はその動物の学名 (GOPHER) にもとづいた駄洒落 (Pun) のような言葉遣いである。上の例を SAE で表すと、以下ようになる。

9a : Hey sexy, how (are) 「you doing」?

9b : I could 「go for」 a beer

これらはいずれも英語母語話者にある特定の人物像やキャラクターを思い浮かばせる。8a の AAVE については後に詳しく述べるが、8b の問題は言葉遣いというよりも発音の問題というべきである。「Gopher」という表現は「ホリネズミ」という動物を表していながら、「Go for」と発音が似ているため、その意味も同時に表している。したがって、「Gopher」の文字通りの意味が分かれば、「ホリネズミ」というイメージが頭の中に浮かぶことになる。本稿では、このような言葉遣いを「動物語」と呼ぶことにする。

4. AAVE

4.1 はじめに

まず、本稿で使われる AAVE というのは、African American English だけでなく、Ebonics (エボニクス)、Black English (BE)、 African American English (AAE) も含め、発話者がアフリカ系アメリカ人である地方の言語を指す。1973 年にワシントン大学の心理学者ロバート・ウィリアムスにより提唱された「エボニクス」⁷、あるいは AAVE は、元々学校等で SAE を習得するために用いられていたものの、アフリカ系の移民の増加と共に広がり、他の国から来た英語話者も含むようになった。

4.2 発音

AAVE の特徴の一つは SAE と違う発音であり、他のアメリカ方言、特に Southern American English と共通している。以下の表 2 は多く見られる発音の差である。

表 2: AAVE の発音的な特徴⁸

	SAE	AAVE
Ask → Aks	I ask him a question	I aks him a question
Ing → In	He' s running fast	He' s runnin' fast
/e/ → /i/	Pen	Pin
(/Th/)xxx → /d/	This	Dis
xxx(th) → /d, t, s, z, f, v/	With	Wif or wit
/st/ → /s/	First	Firs

これらの発音の違いは AAVE の特徴の一つであるものの、必ずしも SAE と異なる発音がすべて AAVE であることに注意しなければならない。

4.3 文法

AAVE における文法的な特徴は発音の特徴よりも顕著である。例えば以下のような違いが見られる。

表 3: AAVE の文法的な特徴⁹

	SAE	AAVE
多重否定	He doesn' t see anything	He don' t see nothing
不規則の規則化	I saw her	I seened/seent her
“ain' t” の補助 役	He isn' t shy	He ain' t shy
コピュラの削除	She is funny/ She' s funny	She funny

⁷ Anne (2008)

⁸ 表は Anne (2008) の表を基にして作成した

⁹ 表は Anne (2008) の表を基にして作成した

常習的なことを “Be” で表す	I go to the store	I be going to the store
所有格の削除	My mama' s house	My mama house

4.4 AAVE と役割語

英語母語話者を調査対象とし、前に述べた発音や文法を聞くとどのようなイメージを思い浮かべるかを聞いてみたところ、ほぼ全員がアフリカ系のアメリカ人のイメージを思い浮かべるということであった。つまり AAVE の特徴をもつ言葉や文を聞くと特定の人種の人物像と結び付けるということであり、言葉とイメージの関係においては「役割語」と同様であると言える。

ここで一つの疑問が生じる。何故このような「英語 (AAVE)」がアフリカ系アメリカ人のイメージと結びついて社会において定着したのかということである。先に見たように、日本語におけるメイド言葉は現実に現れたものが拡大し、定着したものである。AAVE もメイド言葉と同様に、現実で最初に現れ、ある媒体をきっかけとして拡大して定着したと考えられる。その要因の一つが 1970 年代のアメリカから今日まで盛んである“Hip-Hop”であると考えられる。

例えば、1979 年の「To the Beat Y'all」には「Y'all」「Takin」「Ain't nothing」「Movin」「Clappin」「Rappin」のような表現が見られる。その他の Hip-Hop の歌詞にも先に見た AAVE の特徴が多く見られる。それらの歌はほとんどの場合、黒人歌手によって歌われており、それが AAVE の定着につながっていると考えられる。

また、子ども向けのディズニー映画の中にも AAVE の使用が見られる。例えば「Dumbo」には「What' s fryin' boy?」「Brotha」「You ain' t yp in no tree」のような表現が用いられている。このようなアニメの影響も AAVE の定着に影響を及ぼしていると考えられる。

5. 動物語

5.1 学名と役割語

まずは、動物の学名と言葉遣いが結びつけられている例とそこから得られる意味を表 4 に挙げる。

表 4: 「動物語」の例

動物	言葉	含意
Otter	Otter	Got to
Bear (熊)	Bear	Bear (耐える)
Bear (熊)	Bear	Bare
Emu	Emusing	Amusing
Seal	Sealiest	Silliest

Koala	Koalafied	Qualified
-------	-----------	-----------

これらの例のように、動物の学名に類似した音を持つ語や句をあてることでその動物のイメージを用いながら特定の意味を伝達している。これ以外にも、一つの動物の学名が類似の様々な音を持つ語や句と結び付けられる場合がある。

表 5: 「Otter」の名前を基にした「動物語」

動物	文	含意
Otter	If you don' t like animal pun post, then get otter here	Outta (Out of)
	I' ve had it up to here, with your otter nonsense	Utter
	You otter know, you are amazing	Gotta (Got to)
	I laughed at a lotter em (them)	Lotta (Lot of)
	Dis (This) my significant otter	Other

「Otter」という語が「川獺」の意味以外にも、類似の音を持つ五つの語や句と結びつくことで様々な文が作り出されている。このようにある動物の学名を使った文は、文脈の意味に加え、聞き手に動物のイメージを誘起させる。この点で「役割語」の一種であると言える。

5.2 言葉の混成

混成 (Blending) とは、二つの語の部分を取り出して、新しい一つの語にすることである¹⁰。例えば、以下のようなものがある。

- 10a: Breakfast + Lunch = Brunch
 10b: Spoon + Fork = Spork
 10c: Medical + Care = Medicare
 11a: ゴリラ + クジラ = ゴジラ
 11b: ラジャー + わかりました = ラジャりました

これまで見てきた「動物語」もこのような「混成」と類似した現象であるように思われるが、「動物語」の場合は音韻的類似性に支えられた現象であるという点が特徴的であると言える。また、「動物語」においては以下のように異なる品詞が組み合わせられるという点も特徴的である。

¹⁰ 三原・高見 (2013)、p. 44

	12a ¹¹ :	Seal + liest = Silliest (Sealiest)
IPA	<i>sil liest sɪliəst siliəst</i>	
:		
	12b:	Koala + fied = Qualified (Koalafied)
IPA:	<i>koalə fajd kwələfajd koaləfajd</i>	
	12c:	Emu + ing = Amusing (Emusing)
IPA:	<i>ɪmju ɪŋ əmjuːzɪŋ ɪmjuɪŋ</i>	

英語における「動物語」について組み合わせられる後の部分が動物の学名に変換してしまっているもの (Combine) と動物の学名がそのまま別の意味を表しているもの (Direct) という観点から分類したものが表 6 である。

表 6 : 「動物語」の例 (Combine-Direct)

Animal	Vocabulary	Implication	Classification
Hippopotamus カバ	Hippocrite	Hypocrite	Combine
Manatee マナティー	Humanatee	Humanity	Combine
Elephant 象	Irrelephant	Irreverent	Combine
Hawk 鷹	Hawkard	Awkward	Combine
Giraffe キリン	Giraffing	Driving	Combine
Panda パンダ	Pandamonium	Pandemonium	Combine
Toad ヒキガエル	Toadally	Totally	Combine
Snail カタツムリ	Snailed	Nailed	Combine
Moose ムース	Amoosing	Amusing	Combine
Lion 獅子	Lion	Lying	Direct
Toad ヒキガエル	Toad	Towed	Direct
Alpaca アルパカ	Alpaca	I will pack	Direct
Porpoise ネズミイルカ	Porpoise	Purpose	Direct
Fox 狐	Fox	Fuck	Direct
Kitten 子猫	Kitten	Kidding	Direct
Toucan オオハシ	Toucan	You can	Direct
Minow ミノウ	Minow	Me know	Direct
Whale クジラ	Whale	Well	Direct
Owl 梟	Owl	All / I' ll	Direct

¹¹ IPA - IPA: International Phonetic Alphabet 国際音声記号

Puma プーマ	Puma	Pee ma	Direct
Rat ネズミ	Rat	Right	Direct
Cat 猫	Cat	Got	Direct
Iguana イグアナ	Iguana	I Wanna	Direct

6. 翻訳と役割語

これまで見てきた日本語と英語の「役割語」は、それぞれの言語ならではの特徴を持っている。そのような特徴的な言葉遣いはその言語の背後にある文化や社会を表している。では、グローバル化が進み、言葉間の交流が求められている現代社会において、それらの言葉遣いの違いをそれぞれの言語でどのように受け入れればよいのであろうか。この問題について、特に AAVE の翻訳という観点から考えてみたい。

前述のように AAVE にはアフリカ系アメリカ人のイメージを喚起させる効果があり、英語母語話者にはそのようなイメージが喚起される。では、そのような表現が日本語へ翻訳される時はどのように翻訳されるのであろうか。この点について考えるに際し、まず、AAVE を用いる人物像の特徴に関して考えてみたい。ロング・朝日（1999）はアメリカにおける映画とドラマおよびその日本語吹き替え版を比較し、そこに出てくる英語方言と日本語方言の使用が対応するとしている（表 7）。

表 7：登場人物の特徴と英語・日本語の方言¹²

特徴	英語	日本語
黒人の大農園奴隷	AAVE	東北方言
	AAVE	関東方言
	AAVE	東日本方言
都会の労働者階級	AAVE	東北弁・広島弁
	ユダヤ人英語	東日本方言
30 年前の白人農家	米国南部の英語	東北方言
	米国南部の英語	東北方言
	米国南部の英語	東北方言

表から分かることは、英語にも日本語にも「ステレオタイプ」という概念が方言と結び付いているということである。この点に関して、例えば、アニメ「ドラゴンボール」の主人公である孫悟空の台詞として「オッス！おら悟空！」という表現が見られる。このような表現が用いられる背景には田舎出身で純朴なイメージを読み手に喚起させたいという作者の意図があると考えられる。すなわち、日本語においては、方言（おら等）話者が田舎出身で純朴な者であるというステレオタイプと結びついていると考えられる。一方、英語

¹² 表はロング・朝日（1999）、p. 75, 表 1 を基にして作成した

のドラマにおいては、AAVE を用いる登場人物は主に無学なキャラクターとして描かれており、AAVE の使用とステレオタイプとの結びつきが見られる。金水（2007）では方言とステレオタイプの関係について以下のように図示されている。

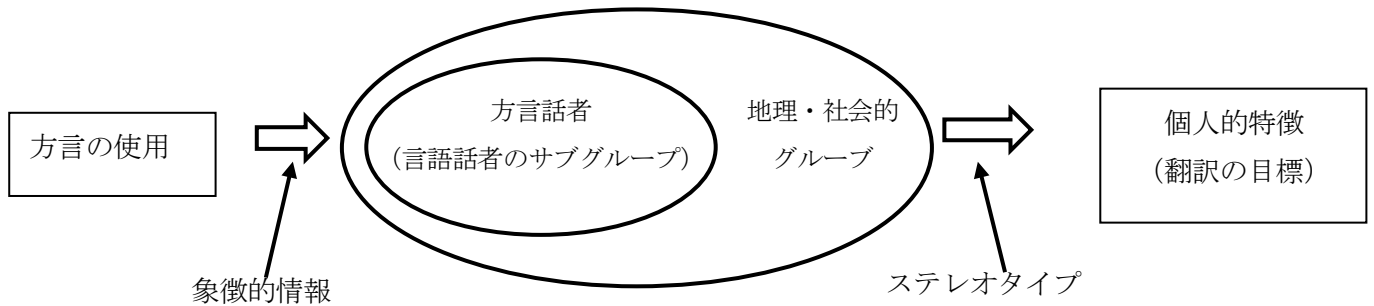


図 3¹³ 方言とステレオタイプの関係

また、AAVE を翻訳する際の日本語の方言の選び方に関して、金水（2007）では先行研究をもとに次のようにまとめられている。

- ① 原文（アメリカ映画）では、登場人物にある一定の特徴を与えるために、それに合ったステレオタイプを持つ方言が使われている。
- ② 日本語吹き替え版には登場人物に原文と同じような特徴を与えたい。
- ③ 同じようなステレオタイプを持つ日本語の方言を選ぶ。

すなわち、翻訳する際には日本語も英語も同じようなイメージを喚起させられるのであれば、適切な翻訳だと言えるということである。では、日本語と英語の習熟度の違いによって喚起されるイメージはどの程度異なるのであろうか。以下においてはアンケート調査を通じてこの点を明らかにする。

7. アンケート調査

7.1 目的と方法

本調査ではこれまで見てきた言葉遣いと人物像の結び付き方が習熟度に応じてどのように異なるかを明らかにする。調査項目は以下の通りである。

- (1) 母語言語
- (2) 話せる言語
- (3) 日本語・英語能力：
 - 1－できない
 - 2－少しできる
 - 3－日常生活レベル

¹³ 金水（2007）、p. 131

4-試験検定 (N1・英検など)

5-母語話者レベル

(4) 言葉遣いとイメージ:

以下の文を読んで、イメージがあれば書いてもらう。

- i. このチキンライスが美味しそうアルよ
- ii. 他人に聞くヨロシ
- iii. ツナロールをお求めデスカ
- iv. なんかすごいですニャ
- v. わ、わたしじゃないよカニ
- vi. Aint nobody got time for that
- vii. Ah might huv lived on the street
- viii. Dey ain' (t) no ba(r)n no mo(r)e
- ix. Ith ish mah fravrit berk
- x. I cannot imeowgine how ameowzing it is

上記の問いに関して、予想される答えは以下のようなものである。

表 8: 予想される「答え」

番号	予想される「答え」
i	中華
ii	中華・外国
iii	外国
iv	ねこ
v	カニ・アニメキャラ
vi	AAVE
vii	田舎・黒人
viii	AAVE・田舎・老人
ix	方言・病
X	ねこ

なお、被調査者の言語力を以下に示す。日本人 10 名に関しては全員日本語母語話者であるが英語力が低い者が多い (11 名中 9 名)。留学生 11 名に関しても、日本語力が低い者が多かった (10 名中 7 名)¹⁴。

7.2 結果

まず、日本人による回答をまとめたものが以下の表 9 である。

¹⁴ ここでの英語力および日本語力はいずれも被調査者の自己申告によるものである。

表 9 : 日本人の回答

問題	特徴	割合
i	アル	45%
ii	ヨロシ	18%
iii	デスカ	18%
iv	ニヤ	63%
v	カニ	45%
vi	二重否定	27%
vii	田舎っぽい発音	9%
viii	二重否定・発音	0%
ix	方言っぽい	0%
x	Meow	27%

表 9 のうち、英語の役割語に関する回答 (vi ~ x) を見ると、正解率、またはイメージを思い浮かべることが出来る被調査者は少ないことが分かる。ほとんどの場合は「N/A (思いつかない)」という回答であった。被調査者である日本人の大学生は AAVE などの言葉遣いと接触する機会が少ないため、それらを理解することは難しいと思われる。

次に、留学生による回答をまとめたものが表 10 である。

表 10 : 留学生の回答

問題	特徴	割合
i	アル	18%
ii	ヨロシ	0%
iii	デスカ	36%
iv	ニヤ	54%
v	カニ	27%
vi	二重否定	50%
vii	田舎っぽい発音	54%
viii	二重否定・発音	63%
ix	方言っぽい	36%
x	Meow	63%

表 10 のうち、日本語の役割語に関する回答 (i ~ v) を見ると、先に見た vi ~ x に関する日本人の回答よりも正答率は高いが、英語の役割語よりは総じて低い傾向にあることが分かる。

これらの結果から、日本人にとっても留学生にとっても他の言語の役割語を理解することが難しいことが分かる。ただし、日本人においても留学生においても英語力や日本語力が高い者は正答率も高い傾向が見られた。ここから、役割語の理解は当該言語の習熟度と関わることが示唆される。

また、表9と表10を見ると、日本人も留学生も「ねこ」のイメージを喚起させる言葉遣い（ニャ・Meow）に関しては正答率が高い。ここから、言語に共通してイメージが喚起されやすい役割語があることが分かる。

8. まとめ

本稿では、まず日本語における「役割語」について、終助詞と一人称代名詞を例に挙げつつまとめた。

次に、英語における「役割語」と考えられる AAVE と「動物語」の存在を指摘した。AAVE はアフリカ系アメリカ人に使用される英語のバリエーションであり、英語母語話者にはアフリカ系アメリカ人の人物像を喚起させる。本稿では、そのような AAVE の言語的特徴を指摘した。また、英語の書き言葉には本稿で「動物語」と呼ぶ言葉遣いが存在していること、およびその特徴を明らかにした。

最後に、日本語母語話者と留学生を対象として、英語と日本語の役割語に関する理解度の調査を行った。その結果、当該言語の役割語の理解は難しいこと、および役割語の理解には習熟度が関わることが示唆された。また、「ねこ」のように言語に共通してイメージが喚起されやすい言葉遣いが存在することも明らかになった。

グローバル化が進む社会においては言語間の接触および翻訳の機会も増加している。そのためには、その言語の背後にある文化も理解しながら当該の言語によって表される意味を正確に理解する必要があるであろう。本稿で扱った「役割語」はイメージに関わるものであり、その理解が難しいと考えられるため、翻訳する際には十分に注意する必要がある。

本稿では、日本語の「役割語」の視点を取り入れることで英語の「動物語」の存在を指摘したが、他の言語にも同様な「動物語」が見られるのか、見られるとすればそれらの「動物語」にも英語と同様の特徴が見られるのか。これらの点を含め、他の言語の「役割語」についても広く分析を行う必要がある。おいずれも今後の課題としたい。

参考文献

- 朝日祥之・ダニエル・ロング (1999) 「翻訳と方言 映画の吹き替え翻訳に見られる日米の方言観」『日本語学』第18巻第3号、pp. 66-77, 明治書院
- 太田眞希恵 (2009) 「ウサイン・ボルトの “I” は、なぜ『オレ』と訳されるのか スポーツ放送の『役割語』」『放送研究と調査』59 (3), pp.56-73, NHK 放送文化研究所
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 金水敏 (2007) 『役割語研究の地平』くろしお出版

金水敏 (2011) 『役割語研究の展開』 くろしお出版

三原健一・高見健一 (2013) 『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版

Anne Harper Charity (2008) 「African American English: An Overview」『Perspective on Communication Disorders and Sciences in Culturally and Linguistically Diverse Populations』 第 15 巻、pp. 33-42、The College of William and Mary